

授業改善等に関する報告書（2019年後期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2019（後期）日本語コミュニケーション学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
デジタルメディア	大倉 恭輔	授業の性質上、いろいろな素材を見たり聞いたりしてもらうことが主軸となります。そのことから、話題の広がりなどについていけない人が出たのかもしれませんが。今年度は、音楽と映像に絞ったのですが、もしかすると、さらにいずれかに絞ってゆっくりと素材に触れてもらうという方法もありかもしれません。考えてみます。半期のおつきあい、お疲れ様でした。
女性文学	高瀬 真理子	この科目は女性の生き方を学生たちの年齢を超えたところで先取りしているため、難しいことと、模型等は使ったものの、書画カメラの設備が貧弱な教室であったことも、学生に負担をかけたと思います。それらを踏まえつつも、今再び、女性の生きにくさと、それでも生きていくこと、憎しみや恨みに見える裏に愛情の問題が絡んでいることを丁寧に伝えられるよう、工夫を重ねたいと思います。
日本語コミュニケーション入門	大塚 みさ	自由記述欄への回答から、ことばやコミュニケーションについての理解や関心が深まったこと、視野が広がったことがわかり、うれしく思いました。小テストや事前・事後課題学修課題への取り組みが自身の学習習慣につながったという声もあり、感心しました。一方、プリントに書き込んでいる間にスライドが進んでしまうという指摘がありました。次年度に向けて改善したいと思います。
日本語コミュニケーション入門	大塚 みさ	自由記述欄への回答から、ことばやコミュニケーション、人間の心理、また異文化理解などについて理解や関心が深まったという声を多く寄せてもらいうれしく思いました。また、responについてポジティブな意見を多くいただきました。発言と比較してresponは答えやすいこと、他の学生の意見が読めることなど、メリットを大いに感じてもらえたようでした。一方、スライドが見づらい、プリントに書き込んでいる間にスライドが進んでしまうという指摘がありました。次年度に向けて改善したいと思います。
日本文学の歴史 b 中近世	佐藤 辰雄	①中世の散文文学史を講じたが、作者が激動の時代をどう生き作品に結実したかを理解するのは、それなりに問題意識がないと自分のものとなりにくいのは当然のこと、問4授業理解度が76.2%と低いのも止むを得ない事かと思われる。しかし、問11成長実感と問15授業満足度がともに4.12と相応に高いのは学生の真摯な意気込みの結果だろう。 ②であるからこそ、問14自己採点が3.88と強気に出たようであるが、しかし、教師による全受講者の評価は平均3.19だった。「B」評価者が最多なのが響いている。
原稿編集	居郷 英司	アンケート結果を見ると、授業の目的はほぼ達成されていると考えられる。午後の授業ということもあり、欠席・遅刻は少なかった。予習・復習時間の少なさが気になる点であった。
情報リテラシー応用	板倉 文彦	本授業は、情報リテラシーに関する上級科目であり、内容も少し高度なものでした。加えて5限授業のため、学生の皆さんには負荷が高かったものと想定されます。しかし、想定以上の評価を頂けたのは、困難であっても積極的に取り組む学生の皆さんの努力の結果でもあると感じています。評価の中で「自己採点」が平均値程度であったことが残念で、自身の今後の課題となりました。
自己表現法（情）	佐藤 辰雄	①問4授業理解度が77.1%・問11成長実感3.75・問15授業満足度3.83の数値が示すように本科目への評価はなかなか厳しいものがある。次期に向けて改善を急がねばならない。 ②問14自己採点3.75はそうした意識から微妙な点数だが、教員の眼は3.45だった。何と言っても「C」評価が3分の1に及ぶのが影響している。
自己表現法（CS）	大塚 みさ	「自分の成長が実感できた」という回答の平均値が高く、大変うれしく思いました。自由記述欄では、自己分析力がついたこと、分析結果を人前できちんと話せるようになったこと、まとめた文章に表せるようになったことなどが報告されていて、授業目標を十分に達成できたことが伝わってきました。授業を振り返ってみると、チャイムとともに行う小テスト、新聞要約に向かう集中力、その後のグループワークに見えた協働性など、受講生ひとりひとりにメリハリが感じられた半期間でした。ここでの学びをベースに、今後ますます成長を遂げてほしいと思います。
自己表現法（CS）	西脇 智子	この授業では、よりよい自己表現ができるようになることをめざしているいろいろな課題を介して学びました。グループワークや発表もしてもらいました。分析結果を見ると理解度は概ね良好で授業目標に達することができました。今後は、授業の成果（課題や提出物）がより高まるように事前事後学修の指示の出し方等に工夫を重ねていきたいと考える機会となりました。

[2019 (後期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
情報と社会	板倉 文彦	<p>本授業の学生の皆さんによる評価は、ほぼ区分平均前後であったと分析しています。</p> <p>平均を下回った項目で、「双方向授業」については本授業が講義系科目であるため不足感を感じられたものと思われる。今後は、講義系科目であっても質問や課題を工夫することで、双方向性を高めていきたいと思います。</p> <p>また、授業に対する満足度は平均値を上回ったにもかかわらず、「自身の成長を実感できたか」の項目は平均値を下回ってしまいました。今後は、より学生の皆さんに内容が定着する工夫を検討していきたいと思います。</p>
詩歌の世界	宮木 孝子	<p>今年もアンケート回答には、励まされます。このアンケートからの反省と、最後の授業時の独自のアンケート（①従来の近代詩詩歌の発生期から始めるか、②その期を圧縮して明治中期以降から現代詩（戦後詩）までを学ぶか）の結果（数名差で、発生期からが多かった）を参考にして、次年度は教科書を使用せず、15回の中で、発生期（初回）・主要詩人（12名）・戦後詩（2名）を各回プリントを中心にすることに致します。</p> <p>また、今回アンケートに協力して下さった26名の内、11の自己の成長を5名が「とても」、15名が「どちらかといえば」に印を記し、12の更なる学びへの6名の方が「とても」、12名の方が「どちらかといえば」に印を下さいました。こちらは、専門的に学ぶ以上に、詩や詩人に関心をもって下さったのだろうと、嬉しく思いました。</p>
コミュニケーションと心理	大塚 みさ	<p>自由記述欄には、この授業で導入したTBL (Team-based learning) への感想が多く寄せられました。グループならぬチームでの学びの効果を教員の何倍も受講生が実感してくれていたことがわかり、うれしく思いました。「楽しかった」という意見だけでなく「他者の意見を聞く・自分の意見を述べる」「意見が割れたときは理由を説明する」といったコミュニケーション能力が養われたことや「協調性が育まれた」ことなどが多数報告されており、それらがみなさんの自信につながったことが確信されました。</p> <p>授業内容への理解・関心はもとより、チーム学習を通してみなさんの力がより伸張する授業を展開できるよう、さらに工夫を凝らしていきたいと思います。</p>
日本文学の歴史 d 現代	宮木 孝子	<p>「日本文学の歴史 d 現代」では、毎年度、毎回15回の中で、近代文学からの継承と変化を伝える難しさを感じます。その中で、数年前から入れたパワーポイントは皆さんの理解に視覚からの歴史的イベントや作家像の理解に役立ったようで、良かったです。また、まだ改善の必要はありますが、それでも、普段、文学作品に余り関心のない方も、この授業で作家や作品に関心をもち、その時代にも思いを馳せてくれたのは、嬉しい限りです。この授業アンケートと、今回見直した1回目から15回目までのコメントシートを合わせて考え、今、このコメントを書いています。現代文学史は、文壇（メディア）の変化、時代社会の影響、そして各作家ごとの個性的文学観と文体をいかに整理して、皆さんに伝えるかが、本年度の目標であり、挑戦でしたが、宮木自己評価では、49%~51%しか、達成できず、反省しています。それに比べ、アンケート参加者の自己評価は厳しいと思えます。</p> <p>最後に、11「自身の成長」を感じて、12「さらに」と意欲を見せて下さったことに、今後の皆さんへの期待が高まります。</p>
プレゼンテーション入門	鹿島 千穂	<p>実践を重視し、発表が多い授業でした。そのための準備にだいぶ時間がかかるため、他の授業に比べると、授業外での学修時間が格段に長いことが、アンケートの結果からみてとれました。それだけの時間をかけて準備をし、クラスメイトと教員の前で発表を行い、フィードバックを得て振り返りをするというプロセスが、自身を成長させるのだということを、実感できたのではないかと思います。私も、みなさんが一生懸命に取り組む姿に感心しました。授業で学んだことを、ぜひ今後の社会人生活や学生生活に活かしてほしいと思います。</p>
企業と情報	板倉 文彦	<p>概ね区分平均を上回る評価でした。しかし、「自己採点」に関しては平均を上回っているとはいえ3点台で、他の項目と比べて低い数値となっています。本授業は企業における情報活用を主体としたもののため、学生の皆さんには実感が湧かない内容も多くあったかと思えます。フリーコメントではそういったことを理解できたとの意見も頂きましたが、やはりより定着させる方法を検討する必要性を感じる契機となりました。</p>
日本語のしくみ	大塚 みさ	<p>外来語について、多角的に知識と関心を深められたことが自由記述欄からわかり、うれしく思いました。</p> <p>3回のレポート課題については毎回関心のあるテーマを見つれたり、前のテーマをより発展させて意欲的に取り組んでくれたので、回を重ねるごとにレベルアップしていったと感じています。毎回同一フォーマットのルーブリックに自己評価を書いてもらい、教員のフィードバックを書き込んで返却していましたが、自分のレポートのよい点を知ったり自己評価の「チューニング」を行ったりという効果もあった一方で、前の回と比較したいという声もありました。この点は次年度改善したいと思います。</p>
物語の世界 b	佐藤 辰雄	<p>①問4授業理解度73.0%と低い割りに、問11成長実感が4.00・問15授業満足度4.20、加えて問14自己採点3.60といずれも程々なのは、漢文資料も駆使した授業に必死で取り組んだからであろうと推察する。</p> <p>②そうした彼女たちへの佐藤の評価が平均3.54なのは、果して鬼か仏か。1年生の堅実さと2年生の明るさが好印象として残る学年であった。</p>

[2019（後期）日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネスコミュニケーション	板倉 文彦	区分平均をほぼ上回る結果となり、まずは安堵しました。本科目は、ビジネスリテラシーに関する上位科目で、毎週新聞購読の課題を課しているため、学生の皆さんには負荷が高い授業であったと思います。しかしフリーコメントからは、時事問題に興味をわいた等の前向きな意見が伺えました。このような学生の皆さんの前向きな態度が評価に表れたものと思われまます。今後は、適切な課題を課しつつより満足度を上げる努力をしていきたいと思ひます。
点字の世界	西脇 智子	この授業は、履修生3名でした。別途、自己評価をしてもらいましたが、このアンケートへの回答は残念ながらありませんでした。点字のルールやルールツ、先人たちを学び、点字器で点字を書く演習、点字を読む（エレベーターの点字表記を含む）演習、点字図書館や点字出版、盲導犬など、「点字の世界」について積極的に学んでいただきありがとうございました。
書籍製作	居郷 英司	アンケート結果を見ると、授業の目的はほぼ達成していると思われる。それぞれの課題を各自が自己の考えで進めていく授業内容のため、欠席が多いと遅れを取り戻すのが難しい面がある。欠席した場合の授業内容をいかに伝えるか、考えていきたい。
卒業研究 b	板倉 文彦	全員から回答を頂け、平均値を上回る評価を頂けました。本ゼミではグループワーク・発表・課題を多く課していますが、本年度の学生は全員遅れることなく、積極的に取り組んで頂けました。評価は授業に対してというよりは、学生自身の頑張りから来たものと想定しています。今後の社会生活で、この授業で得た力が発揮されることを願っています。
卒業研究 b	大塚 みさ	今年は、ほとんどの学生が年内提出を実現でき、その行動力に感心させられました。もちろん教員として指導を尽くしたつもりですが、それ以上に学生同士の協働力、コミュニケーション力に負うところが大きかったと感じています。アンケートにも、中間発表時のディスカッションで互いのよい点、改善点を伝え合えたことがよかったこと、そういう雰囲気であったことがよかったことが書かれていてうれしく思いました。また、計画的に物事を進める行動力、長文を書く日本語力も身についたこと、自信が創出されたことなども自由記述欄に書かれており、短大そして日本語コミュニケーション学科のディプロマポリシーを全うできたみなさんを改めて誇りに思いました。
卒業研究 b	佐藤 辰雄	○まずは卒業研究レポートの完成を目指した努力をねぎらいたい。 ①問4授業理解度81.7%は微妙なところだが、問11成長実感4.33はきっとそうだろうと思う。問15授業満足度が4.67と高いのもそうした感懐と運動しているようが、担当教員としては彼女たちがそのように総括するだけ努力しただろうことを、嬉しく思う。 ②問14自己採点が3.33とかなり遠慮しているのは、アンケートの回答者の人柄によるのだろうか、教員の評価は全体として3.64だった。珍しく「B」評価者が3分の1に及んだ。
卒業研究 b	高瀬 真理子	今年の学生たちは、思いの丈をやりきったのでしょうか。成長実感と満足度、その他諸々がぶっちぎりの高得点でした。そういう意味でありがたいと思いますが、やりたいことを思いっきりやるためには、その苦労がつきまとうことを十分に承知している学生たちであったことが大きいと思います。
卒業研究 b	鹿島 千穂	進捗状況や出来栄に差はあるものの、ゼミ生全員が無事に卒研レポートを提出できたことに安堵しています。長期的な計画を立てて研究を進めることは大変だったことと思いますが、この経験を糧に春からは社会人として新たなスタートを切ってください。
卒業研究 b	松尾 昇治	ゼミのみなさん 各自で定めた研究テーマを1年かけて調査研究し、立派な研究論文にまとめることができました。これからも文章を書くことが多くあるはずで、短大で学んだ学問をこんどは社会の場で活かしてください。期待しています。